

平成 21 年度 第 6 回常任委員会 議事録

日 時：平成 22 年 3 月 19 日（金）14:00～17:00

場 所：土木学会 AB 会議室

出席者：宮川委員長，岸幹事長，石橋（代理：大場），井上，入矢，上田，大津，岡澤，金津，河合、河野，黒田，堺、佐藤（勉），下村，新藤，鈴木、武若，堤，富田，西垣，二羽、橋本、前川、横田，横田、六郷の各常任委員，佐藤、信田，服部、濱田の各幹事，村木（事務局）
山田（オブザーバー：審議事項(1)のみ出席）

配布資料：

- 6-0：平成 21 年度 第 6 回常任委員会 議事次第
- 6-1：平成 21 年度 第 5 回常任委員会 議事録（案）
- 6-2：修正のご意見と対応案（エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針（案））
- 6-3：平成 22 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画 応募
- 6-4：第 54 回 日本学術会議 材料工学連合講演会 土木学会・建築学会からのオーガナイズドセッションの提案 説明資料
- 6-5：土木学会コンクリート委員会 土木材料実験指導書編集委員会委員構成（案）
- 6-6：示方書改訂小委員会 報告書目次（案）
- 6-7：平成 22 年度「重点研究課題（研究助成金）」申請書
- 6-8：コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会（339 委員会） 第 2 期目 設置申請について
- 6-9：土木学会コンクリート委員会 構造物表層のコンクリート品質と耐久性検証システム研究小委員会（JSCE335 委員会） 第二期 委員構成
- 6-10：「混和材料を使用したコンクリートの物性変化と性能評価」に関するシンポジウム開催のご案内と講演論文の募集
- 6-11：9th Symposium on High Performance Concrete
- 6-12：平成 22 年度コンクリート常任委員会・幹事会 予定表（案）

議事：

1. 委員長挨拶

宮川委員長より挨拶がなされた。

- ・3/18 の毎日新聞朝刊に、私の主張「コンクリートは決して悪者ではない —むしろ「使いこなす」時代に—」と題する記事が掲載されたので紹介する。主張がすべて記述できてはいないが、何かの役に立つと思っている。

2. 前回（平成 21 年度第 5 回）常任委員会議事録の確認【資料 6-1】：

信田幹事から議事録（案）が説明された。以下の修正を行うことで議事録が確認された。

- ・4. 報告事項 (1)土木学会論文集の再編について

E2 分冊編集小委員会となり、コンクリート委員会との連携を密にして業務を進める・・・。

3. 次年度の常任委員会・常任幹事会の日程確認【資料 6-12】

第4回常任委員会（11月29日（月））の日程を再度調整することとした。（国際会議等と重なるため）

4. 審議事項

(1) コンクリートライブラリー「エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針（案）」について（第2回）【資料 6-2】：

二羽委員および山田氏（オブザーバー出席）より、資料 6-2 のような意見集約を行ったことが説明された。

- ・質問 41 番（各種 ECF ストランドの強度試験）について質問があった。
 - 疲労強度に関しては、太径の 15.2mm で確認しておけば、細径の 12.7mm の疲労強度はカバーできると思うが、どうしても細径のデータが必要であれば、疲労試験を行うことにしたい。
- ・質問 14 番（付着型 ECF ストランド）について、材料の品質規格が規定されていない。
 - 鋼材試験では確認できないか（質問）。
 - 新規に品質規格を設けることにしたい。規準小委員会と連携し、5月の常任委員会で報告する。
- ・質問 54 番（プレグラウト鋼材）について、実物での確認はしないのか。
 - 実験により確認したが、既往のデータより判断できる。指針案に示された手順と方法にしたがって設計・施工していただきたい。当初の設計を変更した場合がむしろ問題となる。
 - 出荷前に全数品質を確認している。
 - 不具合の事後処理は、出荷時のデータで判断することになるか（質問）。
 - 安全性が担保されていることが前提（意見）。
 - 部分的な不具合ということか（質問）。
 - そうではない。同一ロットであれば同じように問題が生じる。
 - ただし、構造全体でトータルとして不具合となることはない、と考えてよいか（質問）。
 - そうである。
 - 供試体試験では確認できないのか（質問）。
 - 実構造物と条件が異なる。
- ・宮川委員長より、この点についてはさらに解説を充実して欲しい、との要請があった。
- ・新規の品質規格の確認を除き、指針（案）を了承した。

(2) 英文示方書ダムコンクリート編および今後の英訳スケジュールについて【回覧資料】：

上田委員より進捗状況の説明がなされた。

- ・[ダムコンクリート編]については、英訳作業が終了しているが、英文の修正が必要。
- ・[維持管理編]については、5月の常任委員会に諮る予定である。
- ・[施工編]および[設計編]については、7月の常任委員会に諮る予定である。
- ・2010年9月 ISO TC71 総会に提出し、審議を進める。
- ・ISO19338 の対象となるのは設計編のみか、との質問が出された。
 - 実質的にはそうである。
- ・維持管理編も入る可能性がある。現在議論をしている。

- ・施工編は ISO19338 の対象外ですね（確認）。
→ そうである。
- ・19338 には 2002 年版が残っている。
→ 2002 年版は取り下げる。
- ・示方書の作成部会にも回覧してほしい。
→ ダウンロードして閲覧できるようにする。
- ・ISO のグラウトに関する規準が回っているが、十分にチェックして欲しい。
- ・宮川委員長より、西垣委員に十分な確認をお願いしたい、との要請があった。

(3) 英文出版物の取り扱いについて【資料なし】:

- 岸幹事長より、英文出版物の取り扱いについて説明があった。
- ・仕掛かり金より編集会議の費用を出す。
- ・pdf ファイルによる無償配布を行う。(示方書を含む)
- ・コンクリート委員会として印刷原価を負担する。(冊子を残す場合)
- ・技術シリーズと同等の扱いを希望している。(調整中である)
- ・出版部門、国際部門、調査研究部門でガイドラインを作成する。
- ・講習会テキストなどは英訳可とする。
- ・日本語版購入者が負担することになれば、説明が必要になると思われる、との指摘があった。
→ 現在は、負担割合は小さい。
- ・検討を継続する。出版委員会よりコメントが出る予定である。

(4) 平成 22 年度全国大会（北海道大学）での研究討論会の企画応募について【資料 6-3】:

- 濱田幹事より、今年度全国大会研究討論会として「環境調和型コンクリート材料学の創造に関する研究討論会」を提出する旨の説明があった。
- ・関連する JCI の委員会報告が 3 月に出され、7 月 30 日にシンポジウムを開催する予定であるので参考にして欲しい。
- ・ISO のドラフトがほぼ完成しているので、参考にして欲しい。
- ・この案で提出することが了承された。

(5) 第 54 回日本学術会議材料工学連合講演会の OS 設置について【資料 6-4】:

- 服部幹事より、当概講演会において、土木学会・建築学会からのオーガナイズドセッションとして「コンクリート構造物の点検・非破壊試験の現状と将来展望」を提案するとの説明があった。
- ・点検＋非破壊検査のイメージか。
→ そのとおりである。広く募集することを意図している。

(6) 土木材料実験指導書編集委員会の委員構成について【資料 6-5】:

宮川委員長より、「土木材料実験指導書編集委員会」の委員長および委員の交替が付議され、異議なく承認された。

(7) その他

- ・前回議事録の一部修正が出された。

5. 報告事項

(1) 示方書改訂小委員会における検討内容報告【資料 6-6】:

二羽委員より、これまでの検討の内容および最終報告書の取りまとめについて説明があった。

- ・5月の常任委員会に報告書を提出する。
- ・アンケートについてはとりまとめまで終了した。(担当:宇治委員)
- ・2007年版で残された技術的課題は最終報告書の第2章に取りまとめるが、ほぼ終了している。
- ・環境WG、構成検討WG、共通編WGは合同で作業を進めており、3月末で終了する。
- ・2012年版では共通編を新たに設置することになる。
- ・2012年版は紙版か電子版かは今後検討することになる。

河野委員より、3WGの検討状況について説明があった。

- ・第4章は、全体構成を把握する内容である。
- ・第5章は、原則編に相当する。下村委員の委員会成果、河野委員の委員会成果が中心となり、技術者が市民に説明する場面を意識して記述することになる。
- ・第6章は、性能の経年変化などを記述することになるが、現時点では確定していない。改訂作業を進める中で取りまとめることとなる。
- ・報告書はホームページにアップし、ダウンロードできるようにする。
- ・宮川委員長より、委員の任期は3月で終了となっており、次期改訂の日程を考慮した場合、3月末までに報告書があるとよい、とのコメントがあった。
- ・3月29日に宮川委員長と丸山委員(示方書改訂小委員会委員長)とで今後の改訂に関して意見交換を行う予定であることが紹介された。
- ・PR編とはどのような内容か。
 - 読み物調にする予定である。
 - 宮川委員長より、「です、ます」にこだわる必要はない、とのコメントがあった。
- ・改訂委員会の部会の主要メンバーは現メンバーを引き継ぐ予定である。
- ・報告書4.2.2⑤「環境および景観に関する検討」と4.3「環境保全に対する示方書の役割」の関連はどのようになるか。環境も要求性能に入れるべきと考える。
 - 4.2.2⑤は現行示方書の内容を引き継ぐことになる。4.3は環境保全だけではなく広い意味での環境を含む。

(2) 平成22年度重点研究課題助成の採択について【資料 6-7】:

信田幹事より、平成22年度の重点研究課題として「CO₂削減を考慮したコンクリート構造物の解体、再利用、補修技術の調査研究」(研究代表者:河合研至広島大学大学院教授)が採択された旨の説明があった。

- ・応募20件中6件が採択された。
- ・原資は440万円である。

(3) 土木学会論文集における採択率について：

佐藤幹事より、土木学会論文集の採択率について説明があった。

- ・E部門の場合、最近10年で返却率が0.28、最近3年で返却率が0.36である。ちなみに、全部門の平均は、返却率0.33である。
- ・投稿から掲載までの期間は、平均で9.5ヶ月である。
- ・新しいシステムは2010年6月からスタートする。

(4) 339委員会（第2期）の設置について【資料6-8】：

吉沢勝氏（鎌田委員代理）より、「339 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会（第2期）」の設置申請について説明があった。

(5) 3種委員会委員の追加・変更【資料6-9】：

岸幹事より、「335 構造物表層のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会」の委員の追加について説明があった。

(6) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告：

- ・前川委員より、「279 循環型社会に適合したフライアッシュコンクリートの最新利用技術」講演会を開催した旨の報告があった。併せて、第2刷の印刷に入ったことも紹介された。
- ・武若委員、下村委員より、「338 コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術」および「331 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能」に関する合同講習会を開催し、100名程度の参加者があったことが報告された。
→ 武若委員より、3種委員会の報告書のうち絶版になっているものがあるので対応を協議して欲しい、との要請が出された。
- ・服部幹事より、教育研究小委員会講習会「実例に見る、エコロジーコンクリート」を開催した旨の報告があった。
- ・信田幹事より、「混和材料を使用したコンクリートの物性変化と性能評価に関するシンポジウム」開催の案内がなされた。5月24日、土木学会講堂にて開催する。【資料6-10】

(7) その他【資料6-11】：

信田幹事より、「9th Symposium on High Performance Concrete – Design, Verification & Utilization」について紹介がなされた。2011年8月にニュージーランド、クライストチャーチで開催される。

6. その他

次回幹事会：2010年5月11日（火）（案件の締切りは前日5/10（月））

平成22年度 第1回常任委員会：2010年5月18日（火）14:00～17:00 土木学会

以 上